

地域総参加の防災力向上大会が開催されました

地域総参加の防災力向上大会が、令和6年11月7日（木）日本消防会館（ニッショーホール）にて全国から約1,000人が参加して開催されました。

この大会は、10年前に制定された「消防団を中核とする地域防災力の充実強化に関する法律」において、地域の安全を守り住民の皆様の幸せを守るため、幅広い住民の皆様のご理解ご協力を賜るために、全国各地の具体的な活動事例を参考にするとともに、このことについて専門的な研究や具体的な活動を進めておられる方々と意見交換を行い、幅広い地域の皆様の総参加のもと、地域防災体制の充実強化を目指すことを目的とし、公益財団法人日本消防協会が主催で開催されました。

まずはじめに「民間等が主体となった活動事例（Aグループ）」として、三重県志摩市「(株)山下組 建設業者の活動」、福岡県福岡市「(一社)福岡県解体工事業協会 解体業者の活動」、徳島県徳島市「(株)とくし丸 移動スーパーの機動力を活かした活動」、北海道根室市「歯舞漁業協同組合 漁師の命を守るための活動」、の計4団体の発表がありました。

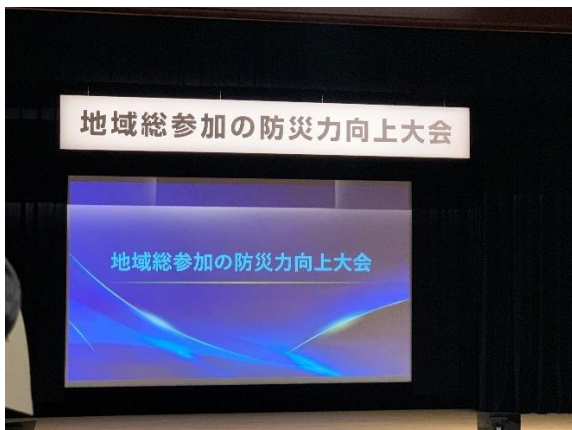
続いて「さまざまな地域コミュニティ団体が主体となった活動事例（Bグループ）」として、宮城県気仙沼市「鹿折まちづくり協議会 地域における活動」、神奈川県横浜市「子どもを育てる防災てらこや」、富山県小矢部市「障害者と健常者の共同の活動」、広島県広島市「自主防災組織による活動」、の計4団体の発表がありました。

職業として色々なお仕事をされている方々が、その経験と技術を活かしながら様々な工夫を凝らして地域の防災活動に貢献され、その貴重なお話をお聞かせいただいたことは、全国の消防団幹部の皆様にとって大変参考になる内容だったことと思います。

シンポジウムでは「地域総参加の防災力向上について」をテーマに、日本消防協会秋本会長の司会のもと、広島市長（映像参加）、兵庫県立大学大学院教授、東京大学先端科学技術研究センター教授、小矢部市障害団体連絡協議会会長、の有識者の皆様でご協議いただきました。

日本の消防は、阪神淡路大震災の経験を経て、全国的な応援体制として緊急消防援助隊を創設しましたが、一方では地域の皆様による即時救急活動、早期消火活動等の重要性や広い視野のもとに様々な情報を把握しながら地域の条件に応じた的確な対応をすることの重要性が認識されてきています。消防防災関係の皆様は様々な施策の中で日々努力されている事を知り、あらためて感銘を受けました。

滋賀県からは、今井消防協会会長をはじめ副会長、事務局の6名が参加しました



秋本会長あいさつ



船橋総務大臣政務官あいさつ



山下組活動事例発表



山下組活動事例発表



福岡県解体工事業協会活動事例発表



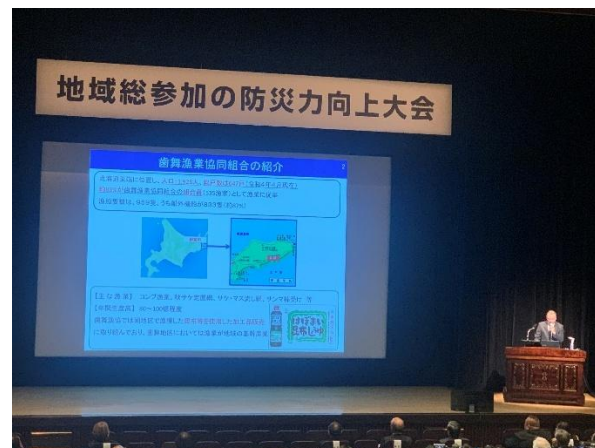
福岡県解体工事業協会活動事例発表



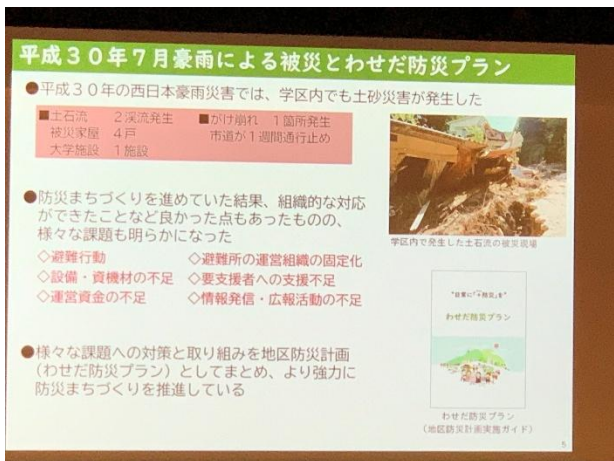
(株) とくし丸活動事例発表



(株) とくし丸活動事例発表



歯舞漁業協同組合活動事例発表



広島市自主防災組織活動事例発表



シンポジウム



小矢部市障害者団体連絡協議会嶋田会長



阪本兵庫県立大学大学院教授



廣井東京大学先端科学技術研究センター教授



秋本日本消防協会会長

